

会 議 録

1 会議名

平成28年度 第7回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成28年度地域活動支援事業の完了について（公開）
- (2) 金谷区の地域課題について（公開）
- (3) 地域協議会及び地域活動支援事業にかかる課題と改善策について（公開）
- (4) 地域活動支援事業募集要項及び審査採択の基本的なルールについて（公開）

3 開催日時

平成28年10月26日（水） 午後6時28分から午後7時55分まで

4 開催場所

中ノ俣地区多目的研修センター

5 傍聴人の数

7人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：高宮宏一(会長)、川住健作(副会長)、村田敏昭(副会長)、伊崎博幸、石野伸二、伊藤三重子、牛木喜九、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、土屋博幸、永野起男、西条聖士、山口茂幸、吉村清正
- ・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、槇島係長、小林主事

8 発言の内容

【小林主事】

- ・16名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言

・会議録の確認：西条委員、山口委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第3報告（1）平成28年度地域活動支援事業の完了について—

【高宮会長】

次第3報告（1）「平成28年度地域活動支援事業の完了について」、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第4議題（1）金谷区の地域課題について—

【高宮会長】

次第4議題（1）「金谷区の地域課題について」に入る。

前回の協議の結果をもとに、今回は地域協議会としてどのような方針で取組を進めていくか、全体で協議する。

前回の協議の結果について、資料No.2により説明。

どのような取組を行ったらよいか、委員に意見を求める。

【伊崎委員】

「地域住民の意見を聞くべきである」という意見について、私はフェイスブック上で他の地域協議会委員の方とつながっており、最近直江津区でも住民との意見交

換会を開いていると聞いた。

直江津のやり方を金谷でも取り入れられたら、たくさんの方の声を聞くことができるのではないかと思い、今日、皆さんに提案したい。1回目が一般住民の方、2回目が住民団体の方、3回目が女性の方というように、細かく区切って意見交換会をするという活動をされている。こういった案はいかがか。

【村田副会長】

補足する。直江津区地域協議会の増田副会長から誘いがあり、「直江津のまちづくりを話し合う会」に、区を超えて参加してきた。よそ者が来たという感じはなく、直江津の住民に混じって話し合いをしてきた。地域の一般住民が集まり、自分たちの生活やまちづくりにおいて、気が付いたことを遠慮なく発言していた。協議会委員がそこに入り、意見を取りまとめていた。例えば、労災病院はどうなるのか、日本たばこ産業の跡地の利用はどうなるのかなど、身近なことを遠慮なく言い合っていた。

金谷区でも、伊崎委員の意見のように、一般の方、地域団体、女性の方に分けて金谷区のまちづくりについて話し合う会を設け、町内会の回覧ルートを通じて全世帯に参加を呼びかけてはどうか。もちろん地域協議会委員もその場に同席する。取組方針に関する意見の中にある「月1回の全体会議だけでは前に進まない」、「地域住民の意見を聞くべきである」ということにも合致する。ものまねになってしまうが、良い取組は導入するべきである。私たちが考えていることを地域の人も考えていれば、後押ししてもらえるし、気が付かないことがあれば、それを課題として取り組めばよい。早急に課題を決めずに、住民の意見も聞きながら取り組むべきだと強く思っている。

【石野委員】

今の意見に賛同する。参加者をどう集めるかは、各町内会長などと連携を取り、各町内会から必ず何名か出席してもらおうなどすればよい。金谷区は北部、中部、南部と分かれているため、それぞれ分けて行うのがよい。月1回ではなく、隔週くらいで集中して行うなど考えられる。直江津では、人が集まるよう土曜日に開催しているため、それも考慮するべきである。地域の幅広い意見を聞くのが重要だと思う

ため、是非そういう取組をしていただきたい。

【高橋委員】

金谷のまちづくりというと範囲が広すぎる。住民は自分の地域のことしか言わない。直江津の意見交換会では、直江津全体を考えたのか、自分の住んでいる町だけを考えてのか分からない。金谷区には、山間部もまちなかもあるため、範囲が広く大変だと思う。私も自分の町内のことを最初に考える。金谷区全部を考えている人は何人もいないと思う。住民との意見交換自体はよいが、その点が問題である。

【村田副会長】

直江津の意見交換会では、直江津全体のこととも言っていたが、自分の近く、例えば駅前の方は駅前のことばかり言っていた。だが、それを直江津区地域協議会としての取組に取りまとめるのが、地域協議会委員の役割だと思う。

金谷区で行う場合も、「金谷区のまちづくり」がテーマでよいと思う。出た意見は、地域協議会委員が集約してまとめればよい。

【高宮会長】

直江津区の意見交換会でそういう話があったということか。

【村田副会長】

地域協議会委員は、出た意見は全部聞いていた。

【高宮会長】

他の地域協議会の活動を見ていると、地域の団体との意見交換の場を設けている地域協議会が多い。

金谷区においては、範囲が広いことがネックになると感じるが、村田副会長の意見のように、住民の意見から何を取り上げるかを我々が協議すればよいと思う。

【山口委員】

住民の意見を聞くのであれば、対象を絞ることが大事だと思う。最初から大々的にやるべきではない。地域協議会の委員は金谷区全体を考えているが、一般の人は自分の地域しか考えていない。

地域の住民の方々と意見交換するというのは、まず初めにやらないといけないことだと思う。金谷区の中の身近な意見を吸い上げるべきである。

【吉村委員】

地域の方々から意見を吸い上げるというのは、まことにそのとおりである。これを行えば、他の取組方針に関する意見も全部網羅できると思う。上越市の市議会議員であれば上越市全般のことを考えるだろうが、われわれは金谷区地域協議会委員であるため、金谷地区のことを一生懸命考えればよい。また、金谷地区の各町内の方々は、自分の家の前のことを一生懸命話していただいて結構である。いろいろな方からいろいろな意見を吸い上げることが一番だと思う。それを地域協議会委員で絞り込み、分かりやすくまとめて市に上げればよい。4年間の任期の中でだんだんとかたちになっていくもの、即効性のあるもの、いろいろあるだろう。とにかくいろいろな方面から意見を聞いて、引出しを増やし、その中で整理していくのが合理的だと思う。

【竹内委員】

直江津区は、前期の4年間で60回の会議を開きながら意見を集約してきた。直江津のまちも歯が抜けるように住宅がなくなっているため、まちをどうするかという危機感が働いたためだと感じている。

金谷区は面積が広く、何か絞れるテーマがない。直江津は歩いても30分くらいの範囲であるが、金谷区はあまりに広すぎる。また、農家もあれば一般住宅もある中で、何を住民の皆さんから聞き、取り組むのか。直江津区は、「病院がなくなりそう」、「街が全然発展しない」、「駅前に行っても誰も歩いていない」などの危機感の中で、「何とかしよう」と思うことが基本になり、話がどんどん進むのだろうと思う。

また、多くの人から意見を聞いて取り組むために、月1回の会議では少ないという共通認識があれば、もう少し前へ進むと思う。

【土屋委員】

他の区の地域協議会の会議開催日時はホームページ等に載っているのか。

【村田副会長】

他の地域協議会の情報は上越タイムスから得ている。また、市のホームページにも載っていると思う。

【伊崎委員】

おそらく載っていると思うが、事務局に伺いたい。

【榎島係長】

市のホームページに開催予定日は載っている。

また、開催結果については、市のホームページに会議録が載るが、少し時間がかかる。新聞に載るような簡潔な協議結果は、市のホームページでは載せていない。

【石野委員】

他の区の地域協議会の開催日は、各区個別のページを見ないと分からないのではないか。一覧はなかったように思う。

【高宮会長】

全地域協議会の開催日の一覧があればよいが、出せないか。

【榎島係長】

事務局への意見として承る。担当課に伝え、対応できるか検討する。

【永野委員】

「月1回の全体会議だけでは前に進まない」というのは、全くこのとおりでと思う。議論した内容は、1か月たつとぼやけてしまう。全体会議の回数を増やした方が、濃い議論ができるのではないか。会議の結論がいつもやむやみになっているような気がするため、検討してほしい。

【吉村委員】

地域協議会委員に手を挙げて参加したため、精一杯やる気持ちではあるが、他にもやるべきことを多く持っているため、月に何度も会議を開催するのは困る。

【山口委員】

他の区の協議会を見ることは可能か。

【榎島係長】

全ての地域協議会の会議は公開である。どの協議会の会議も傍聴は可能である。

【土屋委員】

12月4日に高土区などが合同で地域協議会をするという記事を見た。どういう経緯でそうなったのか聞きたい。

【高宮会長】

事務局に回答を求める。

【佐藤センター長】

おそらく、津有、高士、諏訪の3区だと思う。その3区は雄志中学校区であり、雄志中学校の生徒との意見交換を行うのだと思う。

【高宮会長】

事務局に聞くが、月1回以上開催することは可能か。

【榎島係長】

委員改選後、初回の会議で、会議は月1回の定例開催と決まった。逆に言えば、協議会でどのように決めていただいても結構である。また、一時的に頻度を高めていただいても結構である。

【竹内委員】

地域課題について、「上越市地域協議会委員手引き」を見ると、10リットルのごみ袋が大きいと、5リットルの袋を作るよう市に要望したら、5リットルの生ごみ袋ができたという事例が載っている。地域の声を聞くことにより、大きな課題ばかりでなく、そういったこともできる。多くの意見を聞けば、何か出てくると思う。

【吉村委員】

吸い上げ、整理、検討、また吸い上げ、という作業を行うのがよい。まずは吸い上げる手段を考えるべきである。それにより、月1回では足りなくて2回になったとしても、協議会のあるべき姿であり仕方ないと思う。作業し、方向性を確定することが先決。

【高宮会長】

「地域住民の意見を聞くべき」という意見が集中している。広い金谷区にいろいろな地域があるが、それぞれの住民の身近な意見を聞くことが大切ではないかと感じている。

【吉村委員】

それをまとめるのが我々の責務である。

【高橋委員】

意見を聞くのはいいが、意見を言った人に返事が返っていかないと、「あんなとこ

ろで話しても全然話にならない」となってしまう。聞きすぎてもうまくいかない。
また、この人のことはやったが、別の人の方はやっていないとなると反発が来る。

【吉村委員】

かといって、その場で取り上げるものの選定はできない。

【高橋委員】

そこが難しい。

【齋藤委員】

「金谷区の地域課題について」をテーマに、2回3回と会議をしているが、これで半年が過ぎている。他の地域協議会のやり方も聞いているが、そちらの方の話に縛られている。金谷区には金谷区のやり方があると思う。私は月1回全員が集まるのが一番よいと思うし、2回、3回開催するのは難しいと思う。ただ、回数は結果であって、最初から回数をどうするか話し合ってもしょうがない。

また、竹内委員の意見のように、身近な問題を出してもらい、そこから広げるのがよいと思う。大きな話でどうですかと言われても、詰まってしまう。この後に傍聴者との意見交換もあるが、そこからまた課題をひとつでも見つけられればよい。

【高宮会長】

今後は、「地域住民の意見を聞く」ことに取り組むことでよいか委員に諮り、全員の了承を得る。

他の地域協議会の日程等が分かれば、傍聴してほしい。見聞も広がるかと思う。

【高橋委員】

「4年間の任期の中で成果を出すと考えるのがよい」という意見について、昔は10年で一昔だったが、今は4年で一昔である。そんなに時間をかけるのか。

【高宮会長】

4年かけて取り組むものもあれば、1年で終わるものもあるかもしれない。それは皆で話し合っていくことだと思う。

【高橋委員】

だから、資料No.2の一番上の意見は適切ではないと思う。

【高宮会長】

これは、皆さんから出てきた意見をまとめたものである。地域住民から意見を聞いて、4年ではなくもっと短い期間になるものもあるかと思う。

【石野委員】

これから冬になるため、住民との意見交換会を来年の3月までに開くのは難しいと思う。意見交換会を盛り込んだ、来年の9月くらいまでの期間の計画を、事務局と三役で検討して欲しい。

【高宮会長】

地域活動支援事業の審査もあるが、あまり先送りするわけにはいかないだろうと思う。三役と事務局で検討したい。

【村田副会長】

たたき台になる意見交換の実施案を三役と事務局で相談し、早めに皆さんに提示できるようにしたい。それでよいか。

【石野委員】

実行するための目標を作ってほしい。

【高宮会長】

村田副会長の提案のとおりでよいか委員に諮り、全員の了承を得る。

—次第4議題(2) 地域協議会及び地域活動支援事業にかかる課題と改善策について—

【高宮会長】

次に、次第4議題(2)「地域協議会及び地域活動支援事業にかかる課題と改善策について」、事務局に説明を求める。

【小林主事】

先日、各委員に会長会議に諮る地域協議会や地域活動支援事業に関する議題について意見を求めたが、意見がなかったため、金谷区は意見なしでよいか諮りたい。

【高宮会長】

事務局の説明のとおり、意見の提出がなかったことから、意見なしでよいか委員に諮り、全員の了承を得る。

—次第4議題(3)地域活動支援事業募集要項及び審査採択の基本的なルールについて—

【高宮会長】

次に、次第4議題(3)「地域活動支援事業募集要項及び審査採択の基本的なルールについて」、事務局に説明を求める。

【小林主事】

当日配布資料No.1により説明。

【高宮会長】

No.1の意見について、委員に意見を求める。

【村田副会長】

私も募集期間を延ばすと意見を出したが、実際は1か月あればよいというのが本音であり、延ばしたとしても、5月の連休明け、6日か7日ぐらいまでがよいと思う。当日配布資料No.2に、全区の募集期間等の一覧表が書かれている。これを見ると、大体は4月いっぱいまでであり、5月でも連休明けの1日目くらいまでである。延ばしてもそれくらいだろう。

準備期間は前年度からあるため、この1か月間で提案を考えるわけではない。例えば会計年度が3月で変わる町内の場合、そこから準備をすれば遅い。前年度の募集が終わった際に来年のことを計画するのが本来のやり方であり、新年度になってから準備するのは遅すぎだと考える。

募集期間は4月いっぱいでもよいと思うが、山間地域で雪などの問題があり、5月の連休明けがよいということであれば、1週間延ばしてもよいと思う。

【石野委員】

募集期間はこれでよいと思うが、周知について、募集要項が4月1日の広報と一緒に全戸に配布されるのを、半月や1か月早くできないか。予算成立の問題もあると思うが、「ただし予算が通ったら」という注意書きをつければよい。

また、受付期間はもっと短くてもよいが、補助対象になる期間をもっと早くしてもよいと思う。例えば、受付期間は4月1日から14日までの2週間にして、その

前に案内を出す。そうすれば、地域協議会での審査ももっと早めに行える。地域の人たちがやりやすくなるよう検討するのがよいと思う。

【榎島係長】

募集要項は、予算成立後すぐ4月1日号の広報と一緒に全世帯に配布している。予算が成立するまでは、正式に募集を開始することができないのが理由である。ただ、地域協議会だよりなどで、事前相談は受け付けることを周知している。

また、制度上、例えば4月3日に提案書を出した事業は、5月末に採択されたとしても、さかのぼって4月3日以降の予算執行分は全て補助対象になる。実際に4月1日に提案書を持ってくる団体もある。それを十分理解いただけるように、こちらでも配慮したいと思う。

【高宮会長】

募集期間については、そのようなことでよいか。

次にNo.2の意見について、提案者の石野委員に説明を求める。

【石野委員】

継続的に活動している事業があるが、過去の活動の成果についての資料があれば、説明を受けなくても分かるため、質疑応答の際に時間をとることもなくなると思い、提案した。

【村田副会長】

事務局が説明したとおりでよい。要綱に、「提出が必要な書類」として定められていない。要綱を変える場合はどうすればよいか。

【榎島係長】

この要綱は、募集要項とは別の要綱で、市が定めた「上越市地域活動支援事業実施要綱」というものである。要綱の改正については、市の内部決裁が必要になる。そして金谷区だけでなく、市全体に影響が及ぶことになる。

その要綱には、提出が必要な書類として、提案書のほか、関係書類として団体の規約、見積書、工事がある場合には図面、と定められている。

【石野委員】

過去の活動結果については、参考資料として付けることはできないか。

【榎島係長】

そういったものは、要綱では規定していない。また、提案者は提案書を作成するだけでも非常に負担を感じている。そこに加えて、過去の活動結果について新たに資料作成をお願いするというのは、非常に負担感を与えてしまうのではないかと思う。このことから、前年度の実績報告書の写しを委員に配布することで、これまでの活動については確認できると思い、提案した。

【石野委員】

例えば、数字で表せるものは数字を付け、10年間の活動結果と成果をまとめるなど、ぱっと見てすぐ分かる資料があればよいと思った。

【村田副会長】

では、事務局から前年度の実績報告書をもろう際に、さらに前のデータなどを見やすいようまとめた資料もつけてもらうことで、事務局をお願いしたい。

また、1番の募集期間を延ばすことについて、結論が出ていない。募集期間を延ばすかどうか、全体の意見を聞いてほしい。そして、延ばすか延ばさないか、決を取らないといけないと思う。

【高宮会長】

先ほど、今の一覧表を見て、よいと言われた。

【村田副会長】

いや、延ばす方がよいのか、延ばさない方がよいのか、決まっていない。それを決めてもらわないといけない。

【高宮会長】

No.1の意見について、募集期間は延ばさないでよいと思う委員に挙手を求め、委員全員の挙手により募集期間は延ばさず現状のままと決する。

No.3の意見について、石野委員に説明を求める。

【石野委員】

各区の採択方針は、それぞれ地域によっていろいろな決め方をしている。私は今年初めて審査をしたが、優先採択事業の9項目は本当にこれでよいのかと思った。今日すぐに結論は出ないと思うが、中には市の事業と関連するものもあり、それだ

と市が補助するため提案できないとなることも考えられる。そういう部分を明確にして絞り込んでもよいと思うし、もう少し曖昧にしてもよいと思う。ずっとこのままでよいのか。優先採択事業は、各委員の意見をもとに検討するのが一番だと思う。

【山口委員】

具体的にどれが駄目だと思っているか。

【石野委員】

例えば、「耕作放棄水田の維持管理」が「農業・地産地消」の項目にあるが、これは農家関係の助成制度があるため、それと重複しない事業となるとどんな取組があるのか。また、「都市整備」の項目については、全体的に言えるのだが、「公共交通機関の維持確保・利用促進事業」は、個人や地域の団体がやれるようなことではないだろう。この例の内容が唐突すぎるため、実際に地域の団体ができる内容のもので、もう少し柔らかくしたらどうか。皆さんは多分28区の内容を見たことはほとんどないだろうから、そういうのを見て検討するべきかと思う。

これは今日決められないため、事務局から案や情報を出してもらった中で検討すべきと思う。また、来年度すぐにということではない。任期の4年間の間でもよい。時代が変われば、いろいろ変わってくると思う。

【山口委員】

一概には言えないと思う。ケースバイケースで考えるべきである。ガチガチに固めてしてしまうとよくない。

【石野委員】

ガチガチというより、曖昧にするべきである。他の区では、優しい内容で書いているところもある。そういうのは皆さん分からないから、情報提供してもらったらどうか。

【高宮会長】

他の区の採択方針を確認したうえで検討することでよいか委員に諮り、全員の了承を得る。

No.4の意見について、提案者の高橋委員に説明を求める。

【高橋委員】

「観光振興」の項目の中で、「『金谷山』活性化事業」は、「観光振興事業」に含まれるため、いらなと思う。「中山間地対策」にもあるが、なぜこうなったのか。

【村田副会長】

当時、金谷山を愛する人の意見が強かったのではないか。金谷山だけ具体名で出ている。山は金谷山だけではなく、南葉山もある。今はもうそぐわないのかもしれない。

【高橋委員】

そぐわないと思う。

【村田副会長】

私もそう思う。金谷山だけがクローズアップされている。他の山が載っていないことで非難されるかもしれない。外してよいのではないか。

【高橋委員】

「観光振興事業」に含めてよいのではないか。

【村田副会長】

金谷山だけが具体名で載っている。

【高宮会長】

特に書く必要はない。

【高橋委員】

全ての名前を書かなくてはいけなくなる。

【高宮会長】

この「『金谷山』活性化事業」は削除すると。

【村田副会長】

その文言全部である。

【高橋委員】

「観光振興」と「中山間地対策」の項目にそれぞれある。

【西条委員】

わざわざ「再掲」と書いてある。なぜそうなったのか。

【高宮会長】

『金谷山』活性化事業」は削除することでよいか委員に諮り、全員の了承を得る。

No.5の意見については、齋藤委員から提案があった。

【齋藤委員】

これは我々だけが見るものではなく、本来は募集を周知する際に一般の人たちに分かりやすく伝えるものであり、文章だけだと堅いため、実際はどんなものか頭で描くには難しい。もっと柔らかくて理解しやすい案内文にするべきである。要項という名前自体も堅苦しいと思う。予算が絡むもののため難しいのかもしれないが、一般の人が分かりやすいように事例をイラスト等で表現するなど、興味が湧くような内容にしてもらいたい。イラストではなく、写真でもよい。めいっぱい字が書いてあるため、見る気もしなくなってしまう。

事務局に聞きたいが、変更はできないか。この体裁は共通のもので、金谷区だけが変更はできないというならしょうがないが。

【榎島係長】

募集要項の体裁は決められたものはない。他の区もよく似たものではあるが、そこに何を入れるか、どう並べるかというのは、必要事項さえ書かれていれば、協議会で決めていただいて結構である。

【石野委員】

先ほどの話に戻ってしまうが、募集要項について、例えば「都市整備」の項目に「都市基盤整備事業」が例としてあるが、これはどんなことを想定しているのか、事務局に教えていただきたい。

【榎島係長】

かつて市の事業を提案することができた時期があり、その時のものが残っているのだと思う。

【石野委員】

この例の例がないといけない。載っている例は漠然としたものである。市、県、国の予算でやるようなことも書いてある。

【高宮会長】

地域活動支援事業に市の事業を提案することによって、その資金が使えるという

時期があった。市に町内での課題をぶつけてみると、「こういう資金を使いなさい」という指示がある。町内で市に要望したことがだめだった場合、地域活動支援事業が使えるという時期があったと思う。

【石野委員】

それが変わったとなれば、見直しが必要ではないか。

【高宮会長】

例えば土木事業は、計画をもとに逐次行われている。急がなくてはいけないものは随時行われているが。

そのなかで要望を実現するために地域活動支援事業を活用してもらう、という考えがあったのではないかと考えているが、どのような経緯でこう書かれたかは調べなかった。次回までには調べてみる。

【石野委員】

今すぐというものではない。

【高橋委員】

私の町内でも、市で全然計画に入っていない、優先順位の低い事業を、地域活動支援事業を活用して行ったことがある。2 m程度の幅の砂利道の市道で、自転車で通うお年寄りに危ないため、何年経っても市ではやらないということから、舗装をした。80～90 mの長さの道で、90万円程度かかった。その2年くらい後に、市の事業は駄目だということになった。金谷区の南の方でも、防犯灯を設置するための電信柱を何本か建てたことがあった。

【川住副会長】

朝日周辺の高速度道路の裏側の方、誰もいない危ない所。

【高橋委員】

それも地域活動支援事業を使ったのではなかったか。

【石野委員】

道路に関しては、現在「私道整備事業補助金」がある。その補助金を受ける場合は、地域活動支援事業は使えないと思う。それがよく分からない。

【高宮会長】

今の金谷区としては必要ないのであればよいが、そういう提案が出てくる可能性もある。

【榎島係長】

議論の途中だが、センターからひとつよろしいか。

【佐藤センター長】

最初にも言ったが、今日はこの後、傍聴者との意見交換を予定している。No.5の意見について協議していたと思うが、ここまでとしていただきたい。

【高宮会長】

分かった。残りは後日とする。

【竹内委員】

先ほどの石野委員の質問について、優先採択方針の内容が今も有効なのか分からないため、次回までに調べておいてもらいたい。

【高宮会長】

分かった。調べておく。

今日はNo.5までとし、No.6、7については次回ということでよいか委員に諮り、全員の了承を得る。

【佐藤センター長】

5番は可決されたか。

【高宮会長】

引き続き検討することでよいか委員に諮り、全員の了承を得る。

一次第5 事務連絡

【高宮会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・次回会議日程：11月16日（水）午後6時30分 上正善寺集落開発センター
- 12月21日（水）午後3時 福祉交流プラザ第1会議室

・金谷区地域協議会だより 10月15日号発行済

【高宮会長】

質疑を求める。

【石野委員】

11月の協議会は個人で集合か。

【高宮会長】

そのとおり。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。